

音楽科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく音楽表現ができる。 ・楽しく音楽を聴くことができる。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく音楽表現ができる。 ・音楽の感じや仕組みに関心をもって聴くことができる。

☆今年度の教科の重点

曲の感じや仕組みに気付き、思いをもって音楽表現や鑑賞ができる。

☆授業改善の具体例

(1年)

- ・歌声に気を付けて歌うことができるようにする。
- ・運指に気を付けて、鍵盤ハーモニカの学習ができるようにする。
- ・音遊びを通して、音楽づくりに関心をもてるようにする。
- ・音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。

(2年)

- ・響く声で歌うことができるようにする。
- ・音楽の仕組みに気付き、運指を工夫して鍵盤ハーモニカの学習ができるようにする。
- ・音楽の仕組みを生かして音楽づくりの活動ができるようにする。
- ・曲の感じや仕組みに気付いて聴くことができるようにする。

☆評価・改善

- ・マスク着用での歌唱指導は、口形・呼吸等、不十分だった。
- ・音楽会に向けて、体育館で音量をあげなければならず、きれいな声と大きな声を求めることに困難を感じた。
- ・声での表現には限界があったが、手話表現を加えることで、児童の表現意欲と満足感を引き出すことができた。
- ・鑑賞の活動では、曲の感じや仕組みに気付かせ、自分の思いを言葉で表す練習をすることができた。

音楽科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ○拍の流れによってリズムリレーをしたり手拍子で呼びかけとこたえを表現したりすることは概ねできる。 ○音色や旋律の特徴について、知覚・感受したことを発言することができる。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ○拍の流れによってリズムリレーをしたり、階名で旋律を歌ったりすることは概ねできる。 ○音楽を形づくっている要素について知覚・感受したことを言葉にすることができる。

<p>☆今年度の教科の重点</p>
<p>☆児童が音楽的な見方・考え方を働かせて主体的に音楽活動を行うことができるようにする。</p>
<p>☆授業改善の具体例</p>
<p>(歌唱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容と旋律の特徴との関わりについて知覚・感受する場を導入で設定する。 <p>(器楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの奏法については、3年生の指導内容から丁寧に指導をする。 <p>(音楽づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の仕組みを生かした音楽づくりの活動を設定することで、音楽の構造に気付くことができるようにする。 <p>(鑑賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードで児童の思考を丁寧に見取ると共に学び合いの場を充実させ、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて自分の考えをもつことができるようにする。
<p>☆評価・改善</p>
<p>(第3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容について友達と考えを共有しながら活動したことで、歌詞と旋律の関わりについて考えることができるようになった。 ・リコーダーの運指について、家庭と連携しながら習熟を図ったことで、「ソラシドレ」の運指を覚えて演奏することができるようになった。 ・音楽を形づくっている要素についてねらいを絞った授業を展開したことで、音楽のよさや面白さについての音楽用語を用いて説明をすることができるようになった。 <p>(第4学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の民謡に親しむことで、既習の音楽との違いに気付き、音楽観の拡大を図ることができた。 ・リコーダーの運指について、家庭と連携をしながら習熟を図ったことで、サミングの運指を覚えて演奏することができるようになった。 ・音楽の仕組みのよさやおもしろさについて、自分の考えをまとめる力が身に付いてきた。

音楽科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽を形づくっている要素の知覚・感受ができる児童は4割程度いるが、それを知識として定着させることに、やや課題がある。 ○学び合いの場で、ねらいに沿った話し合いをすることができる。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽を形づくっている要素の知覚・感受ができる児童は6割程度いるが、それを知識として定着させることに、やや課題がある。 ○与えられた課題を基に、自分の思いや意図をもって学びを深めることができる児童がいる。

<p>☆今年度の教科の重点</p> <p>☆児童が音楽的な見方・考え方を働かせて主体的に音楽活動を行うことができるようにする。</p>
<p>☆授業改善の具体例</p> <p>(歌唱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容と音楽を形づくっている要素との関わりについて知覚・感受する場を題材の導入で設定する。 <p>(器楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの奏法については、3年生の指導内容から丁寧に指導をする。 <p>(音楽づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の仕組みを生かした音楽づくりの活動を設定することで、音楽の構造に気付くことができるようにする。 <p>(鑑賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードで児童の思考を丁寧に見取ると共に学び合いの場を充実させ、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて自分の考えをもつことができるようにする。
<p>☆評価・改善</p> <p>(第5学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴や楽器の音色から感じたことを友達と交流することを通して、自分の考えを深めることができるようになった。 ・器楽の学習では、友達とねらいに沿ったアンサンブルをつくる活動を通して、音楽を形づくっている要素についての理解を深めることができた。 ・既習の経験を生かして音楽を聴き、友達との交流を通して楽曲の構成についての理解を深めることができた。 <p>(第6学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の構造や曲想について、自分の思いや考えを言葉や指揮などで表現することにより、友達と考えを共有し、歌唱活動を楽しむことができるようになった。 ・器楽の学習では、旋律と和音と低音の関わりなどについて考えながら合奏することを楽しむ力が身に付いた。 ・学習カードに自分の考えや友達の考えを書くことで学び合いが充実し、既習の知識を再構成しながら学ぶことができるようになった。